



FC町田ゼルビア

障がいの有無に関わらず安心して暮らせる街を目指して 1/2

「ゼルビアと一緒に学習がしたい！」行政からの問いに男性は真っ先にこう答えた。男性はJリーグクラブを応援するためスタジアムに足繫く通っていた。だからこそ一緒にという熱い想いがあった。障がい者の方が社会で生活しながら学び続けられる講座を！町田市が『いのちの価値に優劣はない』と考え、共生社会の実現を目指していくために計画された「町田市障がい者プラン21-26」講座の検討過程で、聴覚障がい当事者の「ゼルビアと一緒に学習がしたい！」という答えがFC町田ゼルビアとのコラボをうみだし、試行錯誤の後に10月から3週に渡る講座が行われた。



活動場所 町田市生涯学習部生涯学習センター、町田GIONスタジアム



協働者

企業、行政、民間団体

協働者名

町田市生涯学習部生涯学習センター、
株式会社TERADA、町田市社会福祉協議会、
町田市身体障害者福祉協会、町田市聴覚障害者協会



協働者の声

町田市生涯学習部生涯学習センター／岩田 武 氏



ゼルビアさんやTERADAさんと講座づくりをしたことで、講座の中にいい意味での驚きを詰め込むことができ、今まで想像したことのないような新鮮な体験が、参加者のやる気向上に繋がりました。単独ではできない素晴らしい講座ができたのは、3者が連携したからこそです。今後も協働して町田を盛り上げていきましょう！



活動詳細情報

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)



カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ





FC町田ゼルビア

障がいの有無に関わらず安心して暮らせる街を目指して 2/2

Story

町田市内では、障がい者の重度化・高齢化などの問題が深刻化。障がい者数も年平均2.3%増加し、近隣同士の相互扶助などが衰退する中、地域で暮らし続ける関係性が不可欠だ。行政は障がい者の『余暇活動』に着目、社会や健常者との接点として学習講座を開設し、当事者の意見からクラブとの協働が実現した。

3日間を同会場で予定したが、より社会生活に近く賑わう場がお互いの理解を深めると考えた際に、株式会社TERADAが活動意義に賛同し、試合会場を活用した講座が実現。懸念点の参加者も定員を超え、



当事者と健常者の参加が決定。

第1回は公民館にて開催。参加者の戸惑いが見られる中、「私は聴覚障がい者だけど手話がわからない」と1つ意見がでると「伝え方に困る」など正直な自分の思いが行き交い、緊張が解け始め、スポーツスタッキングなどの遊びを終えた頃には自然と笑顔が溢れた。

第2回は試合会場で開催。初来場者も多く、人ごみでの行動に緊張感が漂っていた。場内での看板清掃では作業工夫が見られ、場外での自由時間は、疲れた方の横に寄り添い楽しくお話しする姿、注文を手助けする姿など、グループワークで芽生えた絆を見ることができた。

最終回では、大半の方が参加前に講座への不安を抱いていたことがわかった。個々に抱える不安も違う中、全講座を通じて何を感じ・何が変化したのか。意見の多くは『他者との協働体験や学ぶことへの喜び』であった。相手を思いやり『厚かましいくらいに



接点を持ち、知らないことを恥ずかしがらずにトライする』など社会で希薄になっていることを障がいの有無に関わらず講座を通じて感じたことが大きかった。

講座を終え、相互扶助に繋がる変化を垣間見た。参加者同士が連絡先を交換し、外出の約束をされている姿はコミュニティーが誕生した瞬間であった。学習講座を今後も協働していくことは暮らしを支え、安心して住み続けることができる町田の実現へと繋がる。